



「街」

1938年、油彩、合板
131.0cm×163.0cm

松本竣介（1912～48年）

透明感のある深い青で満たされた画面には、街の景色と行き交う人物がモンタージュの手法で重ねて描かれ、中央にはピンク色のワンピースに身を包んだ都会的な女性がたずんでいます。

愛知県碧南市の藤井達吉現代美術館で9月8日まで開催中の「松本竣介『街』と昭和モダン―糖業協会と大川美術館のコレクション

戦争と平和の激動の「昭和」の時代、戦前期の1930年代を中心に近代化や生活の変化から人々の中でモダンライフへの憧れが広がり、やがて戦争へと傾いてゆく矛盾の中、

も都市を中心とした文化への関心が高まりま

ます。

（大倉）

《名画の扉》

大川美術館コレクションから